

大東文化歴史資料館だより

第24号 2018. 5. 31

大東アーカイブス第23回企画展

学内移管資料展

「合同教授会議事録」と学内刊行物

展示期間：平成30年6月12日(火)～平成30年10月12日(金)

(開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00)

展示場所：大東文化歴史資料館 展示室(板橋校舎2号館1階)

第23回企画展では、2017(平成29)年度に移管された学内資料のうち、「合同教授会議事録」を中心としつつ、同時期に刊行された学内冊子などを公開いたします。

「合同教授会」は1963(昭和38)年4月～1986(昭和61)年3月まで設置されていた組織で、その議事録は計17点の簿冊として残されています。当時の大学教授会規程によれば、合同教授会は、全学部の教授全員により組織構成され、全学部に関する重要事項などを協議するものでした。本企画展は昭和後期の本学の歩みとともに、「合同教授会議事録」を紹介いたします。

本年2018年9月20日、本学は創立95周年を迎えます。この4月には、新たに看護学科(スポーツ・健康科学部)、歴史文化学科(文学部)、社会学部社会学科を設置し、新たな歩みを進めました。現在は2023年の創立百周年を目指し、百年史編纂委員会が中心となって関係資料の調査・収集を鋭意進めています。

今後、全学を挙げて創立百周年を目指していくためにも、こうした学内所蔵資料や学内刊行物の公開によって、大学をはじめ学園全体の諸機関において資料移管が検討される契機となればと考えています。関係者の皆様からのなおいっそうのご支援・ご協力をいただければ幸いです。

<展示資料解説>

◆「合同教授会議事録」

「合同教授会」とは、全学部の教授全員でもって組織構成され、全学部に関する重要事項などを協議する機関である。必要に応じ、専任助教授及び専任講師らを合同教授会に出席させることができるが、決議には加えない。定足数については、各学部教授の半数以上が出席しなければ開くことができない。議長は、各学部の学部長の互選によって定められるものとし、主として合同教授会の開催を請求した学部の当該学部長が議長を務めている。この「合同教授会」の特徴として、学則の制定及び改廃に関する事項、学長の推薦・学長からの諮問された事項、図書館長及び研究所長の推薦に関する事項、理事長から学則に基づき諮問された事項などに関して決議する点など、現行学部教授会の性格とはやや異なる特徴を持つ。

合同教授会が開設された1963(昭和38)年は、本学が池袋から板橋へとキャンパスを移転した直後に当たる。少数精鋭主義から多角的精鋭主義へ。決定されたこの「大学振興計画」に基づき、本学は拡大拡充政策へと方針転換を図っていく。以降、東松山に広大なキャンパスを開設し、学部学科の増設や改編を重ねていくことで学園は発展していくこととなった。急ピッチで進む改革の只

中において、合同教授会は大東が本来的な意味において大学教育の本質を見失わないよう会議を重ねる。「合同教授会議事録」はその重要な足跡を残したものである。

なお、合同教授会に代わって、1986年度から学部教授会の自治を尊重したうえで、新たに大学評議会及び連合教授会が設置されることとなった。合同教授会の改組をめぐるのは、1984年11月26日の「合同教授会議事録」（議長：小野法学部長）によれば、委任状を除いた出席教授による無記名投票を行い、改組賛成62票、改組反対9票、白票1票の計72票という投票結果により、改組賛成多数とされている。同上議事録では、付帯決議「大学評議会及び連合教授会は、学部教授会の自治を尊重して運営されなければならない」という意見も出されている。合同教授会の役割や位置付けは、新制大学として発展して来た本学園の歩みを振り返るうえでも、教学側の意見や姿勢を示すものとしてとても重要なものであろう。

◆大学の学内刊行物①

入試用の大学案内である『大東文化大学』は、入試広報課などから移管された資料群である。このうち、「合同教授会」が設置されていた時期の「大学案内」を少しのぞいてみよう。

1976（昭和51）年の「大学案内」では、金子昇理事長が「本学の抱負」として、「昭和36年、関係者多年の宿願であった大学拡張計画が実現し、騒然たる都心を離れて、閑静な理想的教育環境である現在の板橋の地に近代的な新校舎を建設し、爾来毎年教育施設の拡充に努め、昭和42年4月には埼玉県東松山市に近代設備をほこる東松山校舎その他の附属施設を完成した。同時に新構想により、教育内容に画期的刷新を加え、優秀な教

育者をもって陣容を充実強化し、本学における教育の万全を期している」と強調している（18頁）。

◆大学の学内刊行物②

大東文化大学広報部『大東フォーラム』（1989～1993年、前誌『大東文化』を含む）は、年2回発行の学園総合誌であった。「合同教授会」改組直後より誌名を変えて刊行されるようになった本誌には、新しい時代を歩もうとする意気込みが述べられている。

『大東フォーラム』創刊号（1990年11月）の「創刊の辞」では、大東文化学園理事長室長の鏡光昭氏が「二十一世紀は“アジア・太平洋の時代”である、と言われている。（中略）このような大きな時代の流れの中で、本学は昭和六十一年四月、アジアを主眼とした国際関係学部を創設し、本[平成二]年三月第一期生一九七名を社会に送り出すことができた。卒業生の多くが（中略）将来、彼らがアジアと日本の架け橋となって活躍することを願っている。また、本学園は我が国の国会開設百年の本年四月、世界政治の檣舞台で活躍しうる人材養成などを目的とした政治学科を法学部の中に新設した。昨年十一月のベルリンの壁の崩壊に端を発した東欧世界の民主革命の嵐と東西ドイツの統合、米ソの冷戦構造の終結と世界新秩序の模索、イラクのクエート侵攻など世界は今、史上稀な激動の中にある。このような歴史的な時代の節目に、本学の政治学科が誕生したことは誠に時宜を得たことと言えよう。『東西文化を融合して新しい文化の創造を目指す』ことを建学の精神としている本学園は、“アジア・太平洋の新しい世紀”を切り開くための一助として、ここに、学園総合誌『大東フォーラム』を創刊」と述べている（1頁）。

* 大東アーカイブスの動き *

去る3月末日、昨年の創刊号に続き『大東文化大学史研究紀要』第2号が発行されました。今号にも、研究ノート2本、資料紹介1本、随想1本、計4本の多彩な論稿が掲載されています。

この紀要刊行を受け、多角的に議論を交わして今後につなげていくことを目的とし、大東文化大学史研究会が企画され、4月23日(月)に大東文化会館にて第一回公開研究会が開催されました。

報告は、荒井明夫(教育学科教授)「専門学校成立史序説—『帝国大学令』以前—」、谷本宗生(歴史資料館特任准教授)「大学新聞『大東文化』(1966~1973年度)にみる大学のあゆみ」、宮瀧交二(歴史文化学科教授)「昭和2(1927)年、大東文化学院の筑波山遠足—『善く学ぶものは善く遊ぶ』—」の順で行われました。

当日は現役教職員のほか、同窓生や元学長をはじめとした退職された教職員の方々の参加も多く見られ、自由に質問が飛び交う活発な議論の場となりました。

今回の研究会では質疑応答の時間が余裕を持って長くとられていたこともあり、有意義な議論を重ねることによって現在までの研究成果を共有することが出来ました。引き続き、百年史編纂や今後の大東史研究にも大いに役立てていきたいと考えています。



* 資料紹介 *

『群流』

(大東文化学院国語漢文科 昭和18年入学60周年記念)

本誌『群流』は、昭和18年に大東文化学院国語漢文科(本科第二部)に入学した方々によって編まれた、平成15年(2003年)7月20日に発行された記念文集である。同誌は入学から数えて60年を迎えた記念に発行されたもので、12名の寄稿者の論稿から構成されており、発行当時80歳を迎えようとする方々による、在学時の思い出の記となっている。

『群流』とは元々、戦禍が激しい只中を学生として過ごさねばならなかった彼らが、「戦後まもない頃、今回執筆した何人かの人びとによって作られたワラ半紙の同人誌の誌名」(同誌「後記に代えて」より)であり、昭和23年から同29年にかけて、第5号まで発行された冊子であった。巻末には5号分のワラ半紙版の『群流』の目次も掲載されているが、それは論稿だけでなく読書雑感であったり短歌・小説であったりと実に多彩な内容であったことがわかる。

60周年記念に「復刻」された『群流』の、執筆者名とタイトルは以下の通りである。

- 「大東文化学院の思い出」 濱久雄
- 「浦賀」 宮崎豊
- 「一年間ぼっきりの軍隊生活」 大多和六男
- 「懐かしい『群流』」 馬場武次郎
- 「白山丸 =戦犯帰還取材の苦い思い出=」 小川秀男
- 「幼児の文字意識 —青桐幼稚園での実践を通して—」 矢澤修
- 「執着に溺れて」 風透
- 「韓国の桜」 渋谷敦
- 「近況近詠」 吉田登美穂
- 「田代さんの短歌」 鈴木良雄
- 「亡妻追念 二題」 松田上雄
- 「思い出の人びと —後記に代えて」 臺靖



(大東文化歴史資料館運営委員 浅沼薫奈)

< 資料寄贈ご協力のお願ひ >

大東アーカイブスでは、引き続き本学関係資料のご寄贈をお願いしています。学園史に関わる資料がございましたら大東文化大学総務課(大東文化歴史資料館担当)までご連絡いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

百年史編纂事業の進捗状況について

大東文化歴史資料館館長・百年史編纂委員会委員長 中村宗悦
経済学部現代経済学科教授

前号でもお知らせしました通り、現在、百年史編纂委員会では百年史資料編の刊行準備を進めているところです。またその過程でデジタル化して公開できるものは公開していくという方針で臨んでいます。直近では最初の本格的な自校史となった『大東文化大学五十年史』、『大東文化大学七十年史』の全文PDFデータを百年史特設ページ（「継往開来」<http://www.daito.ac.jp/100th/>）の「刊行物」コーナーにアップロードしました。ダウンロードして全文検索をすることも可能になっています。過去の年史にどのような人物やキーワードが登場してくるのかも即座に知ることができますので、研究者のみならず、一般の方々にも興味深い事実発見が可能になるものと期待しています。今後は六十周年、八十周年、九十周年の記念誌や、さらに貴重な資料も精査しつつ、順次公開していく予定です。

また百年史編纂を進めて行く上で重要な非公開資料もデータベース化して編纂作業に役立てていきたいと思っています。幸いデジタル化のための予算も増やしていただくことができましたので、5年後の刊行に向けて作業を進めていく所存です。

一方、ただ資料を並べただけでは「資料編」刊行の意味がありません。貴重な資料をどのように分析していくかがまさに重要となります。そのために本年4月23日に大東文化会館にて第1回の「大東文化大学史研究会」を開催いたしました。当日は、『大東文化大学史研究紀要』第2号（2018年3月刊行）に掲載された研究ノート2つと資料紹介1つについて、それぞれ執筆者からご報告をいただき、参加者の皆さんから活発な質問、貴重なご意見を頂戴することができました。主催者としてどのくらいの方々がお忙しい時間を割いて来てくださるのか不安ではあり

ましたが、おかげさまで学内外から20名ほどのご参加を得て、盛会のうちに第1回研究会を終えることができました。

今後はこのような研究会を年2回ペースほどで開催できればと思っています。とくに『大東文化大学史研究紀要』第3号へのご投稿をお考えの皆様におかれましては、ご投稿前にこの研究会で発表していただければ幸いです。次号掲載分の投稿メ切りは、『大東文化大学史研究紀要』編集委員会より近日中に告知がなされるかと思いますが、投稿自体は随時受け付けております（タイミングによって次号掲載分として査読されるか、次々号になるかの違いです）ので、是非、研究会での発表もご検討ください。

さらに百年史編纂過程で欠かせないのが、関係者への聴き取り調査です。歴史学の分野ではこのようなオーラル・ヒストリーの重要性への関心が年々高まっています。かつては「歴史」と言えば、文献資料に依拠した文献史学が主流でありましたが、1990年代以降は歴史学分野の方法の1つとして聴き取り、映像資料などさまざまな資料の研究も欠かせないものとなっています。とくに本学百年史編纂の場合、まさに同時代を大学とともに歩んでこられた方々がまだまだお元気に活躍しておられます。こうした関係者の方々への積極的な聴き取り調査も、今後、百年史編纂委員会の重要な仕事になっていくと思われます。是非、皆様にもご協力賜りたくお願いする次第です。

*なお、研究会での発表、論文等のご投稿、資料情報のご提供などに関しましては、大東文化大学総務課（大東文化歴史資料館担当）までお知らせくだされば幸いです。

【大東アーカイブス活動記録】（2017年10月～2018年3月）

- | | | | |
|-------|-----------------------------|------|--------------------------|
| 10.11 | WG会議 | 1.11 | WG会議（含；学内所蔵資料の選別移管） |
| 10.16 | 企画展見学説明会（中文科吉田篤志ゼミ） | 1.25 | 紀要編集委員会会議 |
| 10.31 | WG会議
研究紀要第2号エントリー締め切り | 2.19 | WG会議（含；学内所蔵資料の選別移管） |
| 11.4 | 企画展見学説明会（学祭来校者対象） | 3.8 | 百年史編纂委員会
歴史資料館運営委員会会議 |
| 11.8 | 紀要編集委員会会議 | 3.31 | 『大東文化大学史研究紀要』第2号刊行 |
| 11.30 | ニューズレター「大東文化資料館だより」vol.23発行 | | |
| 12.22 | 紀要編集委員会会議
百年史編纂委員会会議 | | |

大東文化歴史資料館だより

第24号

DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.24

発行：2018年5月31日

編集発行：大東文化歴史資料館

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL 03 (5399) 7646 / FAX 03 (5399) 7647

URL : <http://www.daito.ac.jp/information/about/archives/index.html>